

学校教育目標 ○自ら学び、考える子 ○心豊かで、思いやりのある子 ○たくましく生きる元気な子

え ど が わ 春日部市立江戸川小中学校
学校だより7月号

EDOGAWA

令和7年7月1日
児童生徒数 195名

江戸川小中学校ホームページ <https://schit.net/kasukabe/edogawa/>

スマホを使えば使うほど学力が破壊される

校長 鈴木 美江

東北大学の川島隆太教授の研究で衝撃的な事実が分かったと言います。それは、子供の生活・学習状況調査から、家で2時間以上勉強しても、携帯電話（スマートフォンも含む）でメールやネットゲームをしたりしていると、その学習効果がムダになってしまうというのです。子供たちの「脳」に、なにが起きているのでしょうか。（「スマホが学力を破壊する」著：川島隆太）

ゲイツ氏やジョブズ氏も自分の子供にはスマホを制限していた

世界一の富豪であるマイクロソフト社の創業者ビル・ゲイツ氏は、英紙『ザ・ミラー』のインタビューで、自分の子供が14歳になるまでは携帯電話を持たせなかったと明かしたそうです。ゲイツ夫妻には、3人の子供たちがいますが、14歳になり携帯電話を持たせた後も、食事中に使用することや、寝る前に使用する時間を制限したと言います。

アップルを経営していたスティーブ・ジョブズ氏も、アップルの最初のタブレットが店頭に出回り始めたころのインタビューで、「うちの子供たちは、まだ使ったことがないんだよ。家では、子供たちがテクノロジーを使う時間を制限しているからね。」と言っていたと言います。

『ワイヤード』誌の元編集長で、無線操縦飛行機メーカー「3Dロボティックス」の最高経営責任者であるクリス・アンダーソン氏は、自宅にあるすべてのデバイスに対し制限時間を設け、親が管理するようにしていたと言います。彼は6歳から17歳までの5人の子供たちについてこう語りました。「子供たちは、私と妻のことを、ファシストで、テクノロジーについて過剰な心配をしていると非難する。そして、同じような規則がある友だちなんて、一人もいないと言う。でもこうするのは、私たちがテクノロジーの危険をこの目で見えてきたし、私自身が経験しているからです。子供たちには、そういうことが起こってほしくはないですからね。」また、アンダーソン氏は、「一番のルールは、寝室にスクリーンを持ち込まないこと。これは例外なしです。」と言っている。

ブロガーとツイッター、さらにメディアムの創業者であるエヴァン・ウィリアムスと妻のサラ・ウィリアムスは、2人の小さい息子にはiPadのかわりに、いつでも手に取って読める何百冊もの本（もちろん、電子本ではなく紙の本）を与えていると言います。

世界最先端のテクノロジー関連の親たちの間には、一つの共通したルールがあります。

大人は、買い与える前に、その器機が「今、本当に必要かどうか」ということを親子で真剣に話し合い、考える必要があります。また、子供たちが欲しがめる情報器機は、ゲーム機をはじめそのほとんどがインターネットにつながり通信できる器機です。夏休みを間近に控え、その過ごし方について、親子で真剣に考え話し合うことも大事であると感じています。「夏に鍛え、自分を磨く」夏休みに、心も体も一回り大きくなった子供たちに会えることを期待しています。

7月の生活目標
生活のきまりを守り、
落ち着いた生活をします。

コミュニティースクール事業

6年 ハルカイト見学

6年生が総合で神明貝塚の学習を進めるにあたりハルカイトの見学に行きました。昨年の学校運営協議会での熟議にてご紹介いただき、本年度から教育課程に位置付けての見学が実現しました。こども達は実際に目で見て触って体験的に縄文時代や春日部の昔について理解を深めることができました。大風の展示コーナーも充実していました。



コミュニティースクール事業

8年 防災体験学習

春日部市役所危機管理防災課から4人の先生方をお迎えし、ハザードマップを見ながらのマイタイムライン作りや、避難所を想定した段ボールベッド作りを体験しました。感想では、「中学生として災害時には率先して働きたい」という頼もしい意見が見られました。今後も江戸川小中学校では防災教育を大切にしていきます。



コミュニティースクール事業

9年 SDGs 出前講座

コープみらい活動サポーターの皆様にご来校頂き9年生がSDGsについて学びました。動画から考える活動や交流ワークを通して、「今の自分にできること」について理解を深めていました。生徒たちは水や海に関する目標について関心が高かったようです。日々の生活から持続可能な未来社会を創っていけるとよいですね。



市内陸上競技大会（前期課程）

6月5日（木）に市内小学校陸上競技大会（東ブロック）が桜川小学校で開催されました。本校からは、4～6年生の選手が参加しました。自分のベスト記録を目指して、一生懸命に競技するとともに、他の選手が競技している時に、みんなで応援している姿も素晴らしかったです。ベストの記録がでたり、入賞できたりしたのは努力の証ですね。陸上大会に向けた練習を毎日頑張ってきた4～6年生のみなさん本当にお疲れ様でした。

